

平成24年度博物館施設評価シート

施設名 さきたま史跡の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

数値化共通項目(全館共通)

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	320	人	A	330人×97% 開館日数:314日 総入館者数:113,690	
				362	人			
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	320	人	A	330人×97% 開館日数:314日 総観覧者数:113,690	
				362	人			
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	722	件	B	516件×140%	
				601	件			
4	利用状況	インターネットの活	年間HPアクセス件数	339,133	件	A	152,763件×222% 更新116回	
				643,286	件			
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	82	件	B	69件×119% 掲載件数 70件	
				81	件			
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	8,418,000	円	A	当該年度予算計上額 観覧料5,967,760円+その他2,946,240円	
				8,914,000	円			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

必須項目(全館共通)

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	12	件	A	別紙チェックリストによる	
				11	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				16	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				13	件			
9	施設の活用	施設の利活用	施設の利活用状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

館別独自項目

	視点	項目	指標	実施目標達成度		評価	実施目標の設定根拠
							特記事項
1	史跡整備	史跡整備事業の実施と活用	国史跡整備の実施状況	10	件	A	別紙チェックリストによる
				10	件		
2	古墳公園空間の提供	拡張区公園整備と利・活用	古墳公園としての実施状況	5	件	A	別紙チェックリストによる
				5	件		
3	考古資料を活用した体験プログラムの提供	考古体験事業の実施	機能や特色を生かした体験プログラムの実施状況	6	件	A	別紙チェックリストによる
				6	件		
4	魅力ある展示事業	企画展示事業の実施	各時代の考古学をテーマとした企画展の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる
				7	件		

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>①行田市商工会連携事業            ②県内市町村教育委員会・(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉考古学会連携事業            ③地域活性化支援事業            ④新規広報媒体の開拓事業            ⑤公有地及び史跡指定範囲拡大事業            ⑥学芸員の見える化事業</p>
事業の成果	<p>①世界遺産関連講座を2回(5/4・8/11)開催、参加者から好評であった。            ②最新出土品展「地中からのメッセージ」(7/14～9/2)を開催。解説パネル等の作成だけでなく、資料の展示も協働して行い、近年出土した貴重な資料を初公開することができた。また、会期中に遺跡発掘調査報告会を開催した。            ③映画「のぼうの城」公開に合わせ、ギャラリー展示「丸墓山と石田堤」をリフレッシュし、石田堤関係資料を作成・配布している。また、さきたま秋祭りでは、地元商店で構成しているNPOの参加が得られた。            ④新たな広報媒体として、埼玉りそな銀行や地元民間企業・商店と連携し、相互の広報用チラシ等を交換して効果的な広報を図った。            ⑤愛宕山古墳隣接地約642㎡が公有化でき、約38,000㎡が史跡として追加指定され、史跡指定範囲が合計約260,400㎡となった。            ⑥受付に展示解説案内のパネルを設置し、積極的に受け入れて実施している。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	23 (11人)	総予算額 (人件費を除く)	79,021,000円	職員一人あたりの県民人口	31.3 万人
収蔵資料総点数	2,093箱	事業経費 (上記の内数)	10,731,000円	利用者一人あたりのコスト (平成23年度)	867円
平成23年度 収集資料点数	50箱	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	8,418,000円 (5,367,208円)	県民人口に対する利用者割合 (平成23年度)	1.30%

平成24年4月1日現在の埼玉県推計人口は、7,204,353人である。

# 平成24年度 博物館施設 総合評価

施設名 さきたま史跡の博物館

	A評価	B評価	C評価
数値化共通項目	4	2	
必須項目	9		
館別独自項目	4		
総合評価	96% 55点÷(19項目×3点)×100%		

## 自己評価総括

評価	<p>昨年度に比べ1日あたりの入館者数が15%増加した。増加の要因としては既存広報媒体に対して継続的な情報提供に努めたことに加え、新規広報媒体の開拓を重点的に行うとともに、参加型のイベントを中心とした秋祭りを2日間開催したこと、さらに、丸墓山古墳が舞台となった映画「のぼうの城」の公開により、来館者の増加に繋がったことが挙げられる。</p> <p>また、学習支援では、考古専門館の特性を活かした体験メニューや講座を開催し、アンケートでは高い満足度が得られた。</p> <p>資料展示では、企画展3回・共催展2回を開催し、積極的に館有・県教委資料の公開・活用を図った。資料の保存管理においては、IPMの定期的な実施や日常的な温湿度管理に努め、資料の適切な保存管理を務めた。</p> <p>史跡整備では、奥の山古墳の整備完了、鉄砲山古墳の発掘調査では全国で初見となる忍藩の砲術演習場跡(角場)が確認でき、現地見学会を開催するとともに出土品展示コーナーを館内に設置して公開している。</p> <p>また、史跡公園約37haの維持・管理に努め、利用者の事故は皆無であった。</p>
課題	<p>一般入館者は昨年に比べ増加したが、増加要因に映画「のぼうの城」の公開という一過性の要因も含まれているため、横ばい状況にある学校の団体利用増を図ることが喫緊の課題であり、対応策を検討する必要がある。</p> <p>定着した講座は、毎回定員を超える申し込みがあるものの、昨年度同様に欠席率がやや高い傾向が有るため、募集方法・時期の検討を行い周知化を図りたい。また、体験メニューや講座の円滑な運営のため、ボランティアの増員、スキルアップ研修を開催して資質の向上に努める必要がある。</p> <p>鉄砲山古墳の発掘調査で確認された角場の整備・活用については、全国的にも先駆けとなるものであり、慎重な検討が必要である。</p>
対応の方向	<p>入館者、特に学校団体の増加に向けて、県北地域の各市町の校長会や小中学校初任者研修会等、市内や周辺市町小中学校・都内23区内及び市町村立小学校へ利用案内関係書類を配布して団体入館の誘致を積極的に行う予定である。</p> <p>体験や講座の募集時期に関しては、現行の3か月前を2か月前に、また一部を平日開催に変更して欠席率の低下を図りたい。また、体験事業の情報を早く伝えてボランティア活動の機会を増やしたい。</p> <p>角場の整備・活用は、文化庁の意見や史跡埼玉古墳群保存整備協議会などでの協議を踏まえ検討していく予定である。</p>

## 評価委員総括

評価  
小委員  
コメント

- 映画「のぼうの城」の公開の影響もあって、入館者数が増加したことは喜ばしい。一過性とはいいながら、訪れた利用者をリピーターとして繋ぎとめるには、来館時の知的満足度をいかに充足させるかにかかっていると考えられる。考古学専門館の特性を生かしたプログラム作りと新鮮で質の高い情報提供を心がけてほしい。
- 映画撮影の影響もあろうが、昨年度に比べ入館者数が15%増加したことは、当博物館をより多くの県民に知ってもらう上で、良い機会になったと思われる。入館者確保対策としての学校利用の開拓に向けた努力も評価できる。今後、学校教育での博物館の有効性を十分に伝えて欲しい。堅実に博物館活動を進めている様子が窺えることは、評価に値する。
- 入館者数の増加は、一過性の要因もあるものの、新規の広報媒体の開拓や参加型イベント、史跡見学会などの活動や取り組みの成果として評価したい。今後さらに学校団体利用の取り組みなどに期待したい。  
展示解説案内、HPでの学芸員の紹介など、学芸員の見える化事業は、さらにレベルの高い研究の推進と還元、博物館の魅力拡大につながるものとなると思われる。